

『復興県土づくりシンポジウム』を開催しました！

～ 「本格復興推進年」の取組を発表 ～

**県土整備企画室
建設技術振興課**

平成 27 年 1 月 15 日から 16 日の 2 日間、東日本大震災津波からの復旧・復興現場における取組事例の発表等を通じて、現状や課題を共有するとともに、広く県内外に復興にかかる情報発信を行うこと等を目的として、「復興県土づくりシンポジウム」を開催しました。

本シンポジウムでは、技術力研鑽と向上を目的とした県内の土木技術に関する発表会のほか、昨年まで復興の最前線で活躍して、派遣元に戻られた元応援職員も参加し、復興に携わった経験等を語る「応援職員によるトークセッション」を行いました。

当日は応援職員を派遣いただいている派遣元の都府県の職員をはじめ約 200 名が参加し、応援職員の復興への熱い思い等に触れ、本格復興への思いを新たにしました。



及川河川港湾担当技監による開会挨拶



会場の様子



パネル展の開催状況

土木技術研究発表会

○一般国道 282 号西根バイパス全線開通 岩手土木センター 主任 菊池 広伸

平成 26 年 12 月 25 日に全線開通した、「西根バイパス」の事業概要や開通までに苦労した点（用水の確保、軟弱地盤対策など）について、紹介がありました。会場からは、「東北縦貫自動車道が冬期等に通行止めとなった際の西根バイパスの整備効果を把握して欲しい」との意見がありました。



○下水汚泥焼却灰のアスファルトフィラーとしての利用時における粉砕処理の有効性 下水環境課 主任 佐藤 佳之

下水汚泥焼却灰をアスファルト混合物の材料の一つであるアスファルトフィラーとして利用できるか検討した結果について紹介がありました。既存の手法では、アスファルト合材の品質が低下していたが、粉砕した下水汚泥焼却灰を利用することで、通常品より品質及び製造コストで優位になる可能性のあることを発見しました。



○地域維持型契約方式による道路・河川等維持修繕業務委託について 遠野土木センター 主任 安部 努

遠野土木センターで取組んでいる「地域維持型契約方式」の内容や効果等について紹介がありました。「地域維持型契約方式」は、道路や河川等の維持修繕、除草、除雪業務などの複数の業務を複数年の契約で包括的に発注することで、地域社会の維持に不可欠な業務に円滑かつ安定的に対応し、的確な維持管理を行うことを目的に実施しているものです。



○自転車走行空間の整備について 盛岡市建設部交通政策課 技師 白沢 友紀

平成 26 年 7 月に盛岡市が盛岡市大通りに整備した、自転車走行空間「ブルーゾーン」について紹介がありました。ブルーゾーンの表示位置、線形、自転車の走行性の確保等について配慮し整備した結果、整備前に比べ、自転車の歩道走行や車道の逆走といった違反件数が大幅に改善したと報告がありました。



○一般国道 106 号門馬トンネルの冬期道路安全対策について 宮古土木センター 技師 廣内 芳久

平成 26 年 1 月から 3 月にかけて、「一般国道 106 号門馬トンネル」で多発した交通事故への対策について紹介がありました。交通事故を抑制するため、事故発生時の気象データや道路の構造等から事故原因を分析した上で、道路の舗装材料や横断勾配の修繕、路面表示や大型表示板の設置などの対策が施されました。



○宮古市道北部環状線の整備状況について 宮古土木センター 主任 熊谷 仲実

県が代行工事している「市道北部環状線」の進捗状況について紹介がありました。平成 28 年度の開通に向けて、現在は橋梁、トンネルなどの構造物等の工事を進めています。工事現場が市街地に近いため、騒音や振動対策に苦慮しているほか、現場から発生する残土の受入地の調整等が課題となっています。



○「復興支援道路」一般国道 397 号津付道路事業報告 津付ダム建設事務所 主任 小野寺 孝博

平成 26 年 10 月 26 日に開通した、「津付道路」の事業概要や整備効果について紹介がありました。また、希少動植物に配慮（工事の施工時期の調整、希少種の移植など）した点や LED 照明採用によるコスト縮減対策、トンネル覆工コンクリートにおける中流動コンクリートの試験施工について報告がありました。



○「復興道路」一般国道106号宮古西道路（仮称）松山トンネル築造工事について～大断面土砂トンネルの機械掘削～ 宮古土木センター 主任 熊谷 利明

「宮古西道路」の事業概要と、平成26年10月に貫通した（仮称）松山トンネル築造工事について紹介がありました。トンネルの計画区間に分布する花崗閃緑岩が全般的に風化していたため補助工法を採用したこと、トンネル掘削時の観測結果から一次インパットコンクリートが必要となったことなどについて報告がありました。



○下水道展“14大阪への出展報告（全国への復旧復興情報発信）（公財）岩手県下水道公社 技師 金 郁麿、技師 廣内 稔彦

平成26年7月に開催された「下水道展‘14大阪」に出展した取組みについて紹介がありました。被災状況や復旧状況等についてモニター展示やポスター展示を行い、多くの来場者に東日本大震災からこれまでの間における全国からの支援に感謝を伝えるとともに、今後の支援の継続を訴えることができました。



○県代行事業による二級市道沼の浜青の滝線の道路復興整備について 宮古土木センター 技師 小林 翔太（長野県派遣職員）

県が代行工事している「二級市道沼の浜青の滝線」の災害復旧事業の進捗状況等について紹介がありました。他事業から発生した捨石を活用したコスト縮減対策や、工期縮減等を目的としたルート変更の検討結果などについて報告がありました。土砂の仮置き場の確保や埋蔵文化財調査等により工期が遅れないように工程管理を図ることが課題となっています。



○片岸・鶴住居地区の河川海岸災害復旧における取組について 沿岸広域振興局土木部 主査 大石 昌仙（静岡県派遣職員）

「片岸・鶴住居地区」の災害復旧事業の取組みについて紹介がありました。鶴住居地区では東日本大震災津波により多くの尊い命が犠牲となり、事業用地の取得に様々な課題が生じましたが、財産管理人制度や土地収用手続きを活用し、用地取得の迅速化を図った結果、発災から約3年半、用地取得開始から約1年半で用地取得完了できました。



○宮古土木センターで過ごした2年3ヶ月について～応援職員から見た復興への取組と今後の課題～ 宮古土木センター 主任 林 臣志（長野県派遣職員）

東日本大震災津波発災から、応援職員として延べ2年3ヶ月の派遣期間で感じたこと等について紹介がありました。派遣元の長野県と岩手県の組織の違いや、予算管理の一元化、監督日誌の作成、各種基準書の整理などの提言をいただいたほか、復興が完了してからも岩手県と応援職員がつながりを持ち続けられるようにしたいとメッセージをいただきました。



応援職員によるトークセッション

現在東日本大震災津波からの復旧・復興のために、他県から岩手県に派遣されている4名の方と、昨年まで岩手県に派遣され派遣元に戻られた3名の方、計7名に参加いただき、フリーアナウンサーの千葉星子さんの司会進行によりトークセッションを行いました。

出演者から、派遣のきっかけや岩手での思い出、復興への思い、岩手県へのメッセージなどを語っていただきました。会場からは「派遣元で一番伝えたいことは？」などの質問がありました。

最後に佐藤県土整備部長から、「岩手県の復旧・復興の状況を全国に発信することや、応援職員との交流を末永く続けていくことが大切であることを改めて感じた。」とのコメントがありました。



- 通常業務のほかに、「三陸ブランド創造隊」に入り地域を活性化させる活動のお手伝いをしている。
- 東京から友達を呼んだ時は、観光大使のように県内を案内している。岩手の方も自分たちで岩手の良さを見つけて、積極的にアピールして欲しい。
- 被災地から遠く離れると、復興に関心がある人が減ったと感じる。派遣元に戻ったら復興がまだまだ進行中ということ伝えたい。



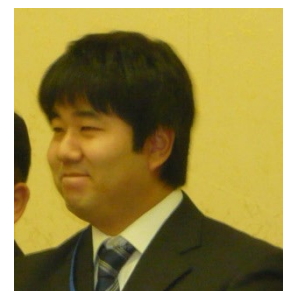
倉下 佳子 さん
沿岸広域振興局土木部（東京都派遣職員）



小林 正隆 さん
宮古土木センター（山梨県派遣職員）

- 学生時代に岩手大学に在学していたので、岩手を第2のふるさとと思っている。
- 岩手の名所をレポートにまとめ、山梨県の方に紹介している。
- 岩手の良さを皆でアピールしましょう。全国には岩手を気にかけている方がたくさんいるので、つながりを築いて復興を進めていただきたい。

- 現場は最盛期。1週間くらい現場に行かないと現場の中で迷うぐらい、刻々とまちの姿が変わっている。
- 休日はテニスをしている。地元の方とも交流でき良いストレス解消法となっている。
- 大阪で災害が起こった際には、助けもらえるように残りの派遣期間もがんばります。



岡田 知也 さん
大船渡土木センター（大阪府派遣職員）



奥 友美 さん
都市計画課（東京都派遣職員）

- ・昨年度は仙台市に派遣されていたが、引続き区画整理業務を通じて復興に貢献したく今年度は岩手県への派遣を希望した。
- ・岩手で初めて行った観光地は北上の展勝地。桜並木がきれいで、空が広い大きな景色に感動した。
- ・派遣元に戻った際は、突然やってくる災害に供え、準備することが大事と伝えている。

- ・地元を離れて生活することで、地元の良さを再認識した。被災者も早く地元に戻りたいのではないかと。被災者が早く地元に戻るよう基盤づくりを進めて欲しい。
- ・現在、静岡で岩手のことが話題になることは少なくなった。
- ・岩手の方は生真面目。たまには息抜きをして御自愛ください。



山口 誉尊 さん
静岡県（H24～H25 建築住宅課）

- ・他事業との調整や労働者・資材不足など、次々と課題に直面し、被災の規模の大きさを感じた。
- ・岩手で過ごした休日は、今でも写真を眺めながら思い出している。自転車で走ると岩手の街道筋の街並みのきれいさに驚いた。
- ・岩手は必ず復興できる。復興道路の整備が完了すれば、観光ポテンシャルも高いので、町おこしもできるのではないかと。



鈴木 善明 さん
長野県（H25 宮古土木センター）

- ・岩手での一年間は、全力で仕事し全力で休日を楽しんだ。
- ・被災地の情報は大阪には届いてこない。自分で情報を探さないと東北の状況がわからない。仕事で辛いときなどは派遣先であった大船渡土木のHPで復興の状況をチェックし、復興の進み具合をみて勇気づけられている。
- ・一丸となって復興に向かってほしい。大阪で応援しています。



中島 正登 さん
大阪府（H25 大船渡土木センター）

